

日本ボート協会2020ビジョン

Japan Rowing Vision 2020



2021年11月

2021年11月吉日

公益社団法人日本ボート協会
会長 坂田 東一

日本ボート協会「ビジョン」について

日本ボート協会では、本来予定していた東京オリンピック・パラリンピックの年 2020 年に創立 100 周年を迎えるにあたり、100 周年事業の一環としてビジョンを策定いたしました。日本ボート協会は、日本で最初に設立されたスポーツ協会で、100 周年を迎える最初の協会になります。新しいビジョンは、「すべての人に、あらゆるライフステージでローイングの機会を提供することによって、人々の心身の健全な発展と社会の進歩に貢献する」としています。

このビジョンの下、基本理念として「幅広い選手の育成強化」「社会に貢献するオアーズパーソンシップの涵養」「国際交流を通じて世界平和に貢献する」といった5つのことをうたっております。そして、行動指針に基づく対策として、総合型地域スポーツクラブの創設・拡充やアーバンスポーツ化、パラローイングの振興、東京オリンピック・パラリンピックのレガシーの活用など、現在、当協会が重要と考えている様々な施策を挙げております。

世界をめぐる環境は日々変化しており、またボート協会自身もガバナンスの確立や財政基盤の強化など様々な課題を抱えておりますが、できるものから計画的に実行してまいります。新しいビジョンの着実な実現により、日本のボートの発展につなげていきたいと考えております。

なお、新たなビジョン策定にあたりましては、2018年8月以来、大久保前会長をはじめとする協会関係者の皆様に、多大なご支援・ご協力をいただきました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

日本ボート協会2020ビジョン/ Japan Rowing Vision 2020

～ 一艇ありて一人無し / Fostering Oarspersonship ～

JAPAN ROWING VISION 2020 / ビジョン

すべての人に、あらゆるライフステージでローイングの機会を提供することによって、人々の心身の健全な発展と社会の進歩に貢献する

JAPAN ROWING CORE SPIRITS / 基本理念

1. Rowing for All：すべての人に、楽しく安全なローイングの機会を提供する
2. Rowers First：幅広い選手の育成強化
3. Fostering Oarspersonship：社会に貢献するオアーズパーソンシップの涵養
4. Securing Environment through Rowing：ローイングを通じて環境保全に貢献する
5. Contributing to International Peace through Rowing：国際交流を通じて世界平和に貢献する

JAPAN ROWING MISSIONS / 行動指針

1. すべての人に、あらゆるライフステージで、楽しく安全なローイングの機会を提供することを通じて、人々の心身の健全な発展と地域の振興に貢献する
2. ローイングを強化し、日本代表の世界での活躍を通じて人々に勇気と感動を与えるとともに、国際交流を通じて世界平和に貢献する
3. ローイングをより身近なものとし、オアーズパーソンシップの涵養を図る
4. ローイングを通じて環境保全に貢献する
5. 2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを活用する
6. 協会運営、ガバナンス、財政基盤を強化する

ACTION PLAN in JAPAN ROWING MISSIONS / 行動指針に基づく対策

1. ローイングの普及と安全なローイング環境の整備を通じて人々の心身の健全な発展と地域の振興に貢献する

- (1)都道府県協会や全国ボート場所在市町村協議会と連携しローイングを振興する
- (2)ローイングを中心とした総合型地域スポーツクラブを創設・拡充する
 - ・ 全国の多くの水域で、ジュニアからマスターズまで、安全にローイングを楽しめるよう、地域の指導者を育成し生涯スポーツとしての環境整備を図る
 - ・ 中学生、高校生に、学校におけるクラブ活動以外の選択肢を確保する
- (3)一般市民参加の地域・市民レガッタなどを振興し、アーバンスポーツ化に対応する
 - ・ 国民が幅広く楽しめるコースタルローイングなど、新たな競技種目を振興する
 - ・ 街中でのスプリントレース(200-300M)の開催などを支援する
 - ・ 地方公共団体主催の「町おこし」などに参加する
 - ・ インドアローイングを振興し、インターネットを活用した全国大会などを開催する
 - ・ 男女混成種目を振興する
- (4)パラローイングを振興する
 - ・ 地域クラブへの障がいのある競技者の受入体制を整備する
 - ・ 指導者・補助者、Classifiersを育成する
 - ・ 障がい者が参加できる競技会を拡大する
- (5)助言体制を整備する
 - ・ 地域での普及活動、競漕会の計画、ドーピング問題への対応、水域ごとの審判体制の構築、安全なローイング環境の構築などについて、周辺環境整備、社会の持続的な発展の観点も踏まえた助言体制を整備する

2. ローイングを強化し、日本代表の世界での活躍を通じて人々に勇氣と感動を与えるとともに、国際交流を通じて世界平和に貢献する

- (1)オリンピック・パラリンピック、世界選手権、アジア大会等での選手の挑戦を支援し、サポート体制を整備する
- (2)ローイングに関する国際的な場に積極的に参加し、国際交流を通じて世界平和に貢献する
- (3)アジアにおけるローイング人口の増加を図り、ローイングの普及・認知度向上に貢献する

3. ローイングをより身近なものとし、オアーズパーソンシップの涵養を図る

- (1)クルー、コーチ、審判等、様々な人々の支えがあって楽しむことができ、人と水のハーモニーを体感できるローイングを通じての人間形成に貢献する
- (2)企業スポーツ、学生スポーツとしてのローイングを振興する
- (3)小学生・中学生と歴代トップアスリートやサポートする人々との交流機会などを設ける
- (4)マスターズ層の協会・地域活動や地域スポーツクラブ活動への参加を促進する

4. ローイングを通じて環境保全に貢献する

- (1)国際大会や国内コミュニティの中で、「持続可能な開発」「きれいな水」に関する環境意識の向上を図り、教育・啓発活動を積極的に行う
- (2)動植物の生息・生育地や生態系の保全ならびに生物多様性の保全に十分配慮する

5. 2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを活用する

- (1)東京都と連携し、海の森水上競技場を活用し振興する
 - ・東京に拠点をもたないクラブ、団体へのローイング機会を提供する
 - ・ローイングに触れたことのない人々を含め、幅広い層が、ローイングを体験できるイベントを開催する
 - ・日本ボート協会、東京都ボート協会などの主催レースを開催する
 - ・企業のローイング・イベントなどでの活用を促進する
 - ・地域スポーツクラブ主催のインドアローイング大会、短距離競技会(200-300M, 500M, 1000M)、Training Campsなどを開催する
- (2)World RowingおよびAsian Rowing Federation (ARF)と連携し、海の森水上競技場をマルチパフォーマンスセンターとして、国際大会、Indoor Rowing大会、アジア・オセアニアを始めとする各国のTraining Camps、デベロップメントセンターとする

6. 協会運営、ガバナンス、財政基盤を強化する

- (1)ビジョン実現へ向けて協会運営・事務局体制を整備する
- (2)ガバナンスコードへの対応として、役員女性の比率(目標40%)、外部理事比率(目標25%)の向上等を図る
- (3)スポーツ庁、都道府県の担当部署、障がい者スポーツ協会、スポンサー企業などとの連携を強化する

- (4)全日本大学ボート連盟（仮称）と連携し、日本ボート学生連盟の活動を支援するとともに、学生ボート界の意見を協会運営に活かす
- (5)ローイング関係者に限定せず各界（経済界、政界、官界、マスコミ等）の意見を取り入れるため、アドバイザーボードを創設する
- (6)ビジョン実現の前提となる財政基盤を再建・整備する
- ・ 自主財源の拡充を図るとともに公的助成も活用しつつ、単年度で収支相償う安定的な基礎的財務収支を確立する
 - ・ 新たな収益機会創出のため、イベント創設、物品販売、マスターズ競技者への競技会の拡充と競技者としての組織化を図る等も含め、あらゆる収益機会を検討・創出していく
 - ・ 企業および個人からの広告や賛助・協力の体制を強化する
 - ・ ビジョン実現の優先順位と費用対効果の分析に基づいた中期業務計画・予算配分の策定と、定期的な検証を行う
- (7)事務のIT化を図り、情報管理を強化する
- ・ 全日本、国体、インターハイなどの選手登録、AD Card化
 - ・ タレント発掘や役員等協会関係者などに関する情報のデータベース化
 - ・ ホームページやSNS等の活用とセキュリティの強化

以上



公益社団法人

日本ボート協会